

園だより



2025・2月号

くすのき保育園

Eメール kusunoki_mori@feel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://minnanomori.jp/hoiku/kusunoki/>

節分会にて・・・



3日に節分の会が行われました。(鬼が来る前はドキドキしていた子も登場すると自分たちで作った豆を必死に投げていました。あおむしさんは怖くて泣ける子も多かったですが、さなぎ・ちょう組さんは鬼に向かっていく子もあり、頼もしかったです。乳児クラスではクラスによって鬼は顔を見せるだけだったり、少し部屋を覗いたり…。それでも鬼の登場には怖くて泣ける子が多かったです。

節分には古くから多くの由来がありますが、日本の伝統行事の一つでもある節分を怖がらせる行事ではなく、大事なことも伝えながら文化に触れる機会を大切にしたいですね。



発表会に向けて

くすのき保育園発表会が近づいてきました。幼児クラスは1月に入り本格的に話し合いがスタートし、今は題材、配役が決まり流れを作っている段階です。先日その様子を見に行ったところ、子どもたちはそれぞれ自分たちで作った道具を使いながらとても楽しそうに遊んでいました。劇が始める前に舞台にいなかった3歳児の子を「いっしょにいこう」と優しく声をかけて手を繋いで連れていってくれる5歳児、劇の中でセリフが止まってしまった時、ひそひそと友だちにフォローを入れる4歳児、自分の役はこれだ!と役をダイナミックに演じる子もあれば恥ずかしがりながらも一緒に舞台に立つ3歳児。色々な姿がありますがどの子もとても楽しそうでした。ある5歳児の子は劇が終わったあと、「みてみて～」と自分で作った小道具を見せてくれました。「素敵な楽器ができたね」というと、「ここをうえにあげると、たかいいおとがでて、ここをしたにさげるとひくいおとがでるんだ～」と教えてくれました。一つの道具を作るのにも自分なりのこだわりや工夫があり、こうして考えながらできたものはきっと大事に使っていくのだらうと思いました。

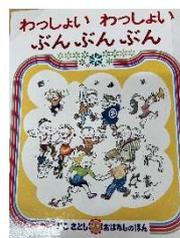
くすのき保育園の発表会は子どもたちが自分たちで題材、配役、セリフを決めます。決めていく段階の中で子どもたちは様々な話し合いを重ねますが、自分の思いを出して受け入れてもらえることもあれば、そうでない時もあり本当はこうしたいのに…という葛藤も経験します。一度で決まることはほとんどありません。どうしたらみんなが納得して一つのことに向かえるのか、そこには子ども同士色々な提案をしながら話し合いを重ね、互いの思いの折り合いをつける場所を自分たちで探したり、その子の思いをどうやったら叶えられるかをみんなで考えたりしていきます。自分の思いを受け入れてもらえた経験は友だちの思いを受け入れようとする姿へとつながっていきます。発表会ではぜひ、大事にしてきた今までの過程に思いを馳せながら、ご覧頂けたらと思います。(話し合い等の詳細は各チームのおたよりをご覧ください)

うさぎ組はごっこ遊びの発表会です。友だちとの関係が少しずつ深まり、みんなで楽しいことをするのがうれしい2歳児。普段の遊びの中でも少しずつイメージを共有できるようになり、電車ごっこ、どうぶつごっこ、忍者ごっこお店屋さんごっこ等様々なごっこ遊びを経験しています。ごっこあそびは子どもにとって何にでもなれる楽しい世界。その世界を安心できる大人のもとで、友だちと一緒にやりとりする経験するは、認識、ことば、人と関わる力も育くみます。ごっこ遊びを大切にしてきた普段の遊びの様子をご覧ください。当日はどんなごっこ遊びが展開されていくのか楽しみですね。

うみ →



やま →



ほし →



異年齢チームの題材です